ERP は、トランザクション ワークフロー (要求 ->発注書--->領収書--->請求書) をサポートするために Coupa に統合されたマスタ データのソースとして機能します。Coupa でのサイクル完了後の処理のためにトランザクションデータは ERP に統合されるため、統合エラーを回避するために、Coupa マスタデータが ERP ソースと同期することが重要です。供給業者は、ERP をソースとして持つ主要なマスタ データ ポイントの 1 つです。ERP がマスタデータのソースとして機能する理由について、次の重要なポイントを示します。

* Coupa では、トランザクション ワークフローに必要な ERP 供給元フィールドの一部のみが必要です。これらの項目は、ERP と Coupa の仕入先レコード間のマッピング作業中に識別されます。
* クーパの仕入先番号として受信フィードでキャプチャされる主要な ERP サプライヤー識別子があります。これにより、Coupa は、ERP の適切なマスタサプライヤに関連付けるために、発注書や請求書などの送信トランザクションでこのフィールドを渡すことができます。このリンクは、新しいサプライヤーが Coupa で直接登録され、インテグレーションがエラーになった場合に破損します。
* ERP サプライヤー レコードは、下流のチームが仕入先の管理および支払いの目的で使用できる財務ベースの情報をホストします。このような情報は、クーパでは必要ありません。
* ERPにおけるサプライヤー構造は、クーパで異なるモデル化されてもよい。Coupa は、ERP でサプライヤーがどのようにモデル化されているかを駆動すべきではありません。複数のサプライヤーサイトを持つヘッダーサプライヤーレコードは、各サイトに対して個別のサプライヤーレコードを作成するためにCoupaでフラット化する必要があります。
* ERP に格納されているサプライヤ ソース データに依存するシステムが他にある可能性があります。
* SIM が画像内にある場合、ERP サプライヤー レコードは引き続きマスタデータのソースとして残ります。SIMレコードは、内部ユーザーとサプライヤー間のサプライヤー情報の更新を収集するための船舶として機能します。ほとんどの場合、SIM の詳細が承認されると、クーパは ERP に依存して承認されたデータを提供するため、クーポンサプライヤー レコードは直接更新されません。これにより、SIM、ERP、およびクーパサプライヤーレコード間の情報の同期が維持されます。

要約 ERP は、ワークフローに必要な関連データをクーパに提供する必要があるサプライヤーマスタデータのソースであり、COUPA で処理された後にトランザクションデータを ERP に正常に統合するために ERP レコード属性を含んでいます。